



ホクレン

ホクレングループレポート 2013

実りふくらむ明日へ。

北海道の農業をもっと発展させたい。

かわる人たちをもっと笑顔にしたい。

だからこそ、

築いたものを守りながら、新しいものをうみだしていく。

今ある絆を強めながら、より広い世界とつながっていく。

大地の実りも、地域の实りも、もっともっとふくらむように

私たちは使命を果たしていきます。

ホクレングループレポート 2013

会長メッセージp03
ホクレングループの活動p06
うみだすp07
ささえるp11
とどけるp15
ひみげんp19
はぐくむp23
事業本部紹介p27
図表でみるホクレンp37
働きやすい職場環境 づくりに向けてp45
ホクレングループCSRを 支えるマネジメントp47
ホクレングループのあゆみp49
第三者意見p50



北海道の農業と地域社会発展のためにベストを尽くします。

代表理事会長 佐藤俊彰



「ステークホルダーを想い 社会に貢献」

ホクレンは、1919年に前身である「保証責任北海道信用購買販売組合聯合会」の設立認可を受けて以来、北海道の農業と生産者のために事業を続けてまいりました。ホクレンの使命は、生産者・JAと共に北海道農業の着実な生産振興を図り、消費者の皆さまに安全・安心で良質な食品を提供することです。

そのためには本会の事業に関わる全てのステークホルダーの皆さまからの支持・信頼を得て、社会に貢献していかなければなりません。私たちがホクレングループは、生命の源である「食」に携わることへの誇りを持ち、倫理観と使命感を忘れずに、社会に対して誠実な活動を展開してまいります。

「理解」「協調」「挑戦」を 常に意識

わが国の農業は、農家戸数の減少と高齢化、耕地面積の減少、さらには、東日本大震災による影響、TPPなど、さまざまな問題を抱えています。私たちはこれらの課題を解決しながら、消費者ニーズに応え、生産者・JAの皆さまの負担に減らしていかなければなりません。そこで私は役職員に対し「理解」「協調」「挑戦」の3つの言葉を常に意識して実践していくようにと語り続けています。

大切なのは、生産現場との接点を強め、生産者の方々が抱えている問題を「理解し、われわれがどのような役割を果たし得るかを考えることです。また、農協系統の枠を超え、経済界や自治体、多くの消費者の方々々と「協調し」て課題を解決することです。加えて、農業を取り巻く厳しい環境に適応し、変化に対応するため、新たなことに挑

戦し続けなければなりません。

今後ますます「理解」「協調」「挑戦」を意識し、私たちホクレングループが社会と強い信頼関係を築き、あらゆるステークホルダーの皆さまの期待に応えられるよう努力してまいります。

「未来を見据えて 計画を推進」

本会では中長期的な事業戦略を構築するため、3カ年の中期計画を策定しており、2013年度が第11次中期計画の初年度となります。北海道農業を取り巻く環境変化に対応するためにも、本会の担うべき役割は今まで以上に多様化すると考えています。5年後、10年後を見据えて、「本会のあるべき姿」を描き、それに向かって高い目標を具体的に掲げ、ホクレングループ役員が一丸となって挑戦してまいります。

「第11次中期計画」 「5つの基本方針」

- 北海道農業の持続的発展を強く推し進めるため、「生産現場の強化」に取り組みます。
- 生産性の向上や生産者ニーズに即した【営農コスト低減】に取り組みます。
- 農業所得の向上や消費者の支持獲得に向け、「販売の強化」に取り組めます。
- 生産者の利便性向上に向け、「地域密着型事業の強化」に取り組めます。
- 本会事業機能のさらなる発揮に向けた全体的な【経営基盤の強化】に取り組めます。